

質問書

2021年9月16日

「ガーナ国稲種子生産向上計画準備調査」

(公示日:2021年9月1日/公示番号 21a00575) について、質問と回答は以下の通りです。

| 通番号 | 当該頁項目 | 質問 | 回答 |
|-----|---|--|---|
| 1 | 28 ページ、第 4 章特記仕様書案、 (1) 業務工程、【調査スケジュール案】 | 第一次現地調査が 11 月中旬から 12 月後半とありますが、隔離期間及び人月の日数を考慮すると、11 月初旬に出発になるかと思いません。11 月上旬から国内事前準備開始すると、第一次現地調査までに十分な時間が取れない恐れがあります。この場合、渡航時期の延期の可能性はありうるでしょうか。 | 本案件は、2022 年 7 月の閣議での承認を目指しており、可能な限りこの日程で進めたいと考えており、設計方針会議、概略設計協議方針会議が企画競争説明書記載の実施時期に可能であれば、若しくは概略設計概要資料の提出時期が企画競争説明書記載の実施時期に可能であれば調査日程の変更は可能です。また、どうしても困難と判断した場合は、その限りではございませんので、ご相談頂ければ幸いです。 |
| 2 | 28 ページ、第 4 章特記仕様書案、 (1) 業務工程 | ガーナでは「空港での新型コロナウイルス検査結果で陰性であった者についても、10 日間の自主隔離を勧奨」としてありますが、勧奨の捉え方について、貴機構の考えをお知らせ下さい。 | 当機構ガーナ事務所では、現地到着後の自主隔離期間は 10 日間ではなく 3 日間として対応しています(自主隔離 3 日目に PCR 検査を行い、陰性であれば翌日から隔離期間終了となります)。よって、プロポーザルでは自主隔離期間を 3 日間として業務工程を検討願います。ただし、上記は現時 |

| | | | |
|---|--|--|---|
| | | | 点での対応状況であり、本調査の実施時期には変更されている可能性もございます。 |
| 3 | 16 ページ、第 3 章特記仕様書案、 第 2 条 プロジェクトの背景 | NRDS-2 では 2030 年までに 28,000 トンの認証種子を目標値とする予定とのことですが、この中には本事業で機材が整備される予定のポン、トノ、ボンタンガ、ウエタの 4 灌漑地区での増産見込みの割合はどの程度と想定されていますでしょうか。また、現状これらの 4 灌漑地区での種子生産量（ベースライン）をご教示頂けませんでしょうか。 | 増産見込み及び種子生産量のベースライン値につきましては、本調査内で現地にて、CP 機関などと協議・確認いただく想定です。なお、後者につきましては、専門家を通じて確認中ですので、質問回答期限内に情報が入りましたら情報提供させていただきます。 |